

ハートフルなんぶ

2010. 6月号 Vol.140

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川1201番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<http://library.nagano-ngn.ed.jp/>

長期休館のお知らせ

6月22日(火)から7月4日(日)まで、蔵書整理のため、休館とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますが、ご協力お願いいたします。

なお、本の返却は玄関横の返却ポストをご利用ください。



移動図書館

巡回場所・時間変更のお知らせ

6月から巡回場所・時間が変更になる場所があります。巡回日程表をご確認ください。

6月からの巡回日程表は、広報ながの5月1日号と図書館ホームページに掲載しています。

また、南部図書館カウンターや移動図書館窓口にも用意してあります。

新刊案内



- 『新人諸君、半年黙って仕事せよ』 山田ズーニー／著 筑摩書房 <159ヤ>
『葬られた王朝』 梅原 猛／著 新潮社 <210.3ウ>
『武士の一言』 火坂雅志／著 朝日新聞出版 <281ヒ>
『暴走検察』 上杉 隆／著 週刊朝日取材班／編 朝日新聞出版 <315ウ>
『世界の珍虫101選』 海野和男／著 誠文堂新光社 <486ウ>
『やさしいソーイング基礎ブック』 出羽律子／著 新星出版社 <593テ>
『ケンタロウ1003レシピ』 ケンタロウ／著 講談社 <596ケ>
『ターシャの喜びの庭』 リチャード・W. ブラウン／写真
メディアファクトリー <629フ>
『火群のごとく』 あさのあつこ／著 文藝春秋 <Fア>
『道徳という名の少年』 桜庭一樹／著 角川書店 <Fサ>
『小暮写真館』 宮部みゆき／著 講談社 <Fミ>
『預言』 ダニエル・キイス／著 早川書房 <933キ>

今月のテーマ「エッセイ」

- 『幸田文きもの帖』 幸田文／著 青木 玉／編 平凡社 <<914.6 コ>>
 『闇夜の国から二人で舟を出す』 小池真理子／著 新潮社 <<914.6 コ>>
 『ももこの70年代手帖』 さくらももこ／著 幻冬舎 <<914.6 サ>>
 『ただのナマズと思うなよ』 椎名誠／著 文芸春秋 <<914.6 シ>>
 『遺したい言葉』 瀬戸内寂聴／著 日本放送出版協会 <<914.6 セ>>
 『今、ここからすべての場所へ』 茂木健一郎／著 筑摩書房 <<914.6 モ>>
 『もうひとつのアンパンマン物語』 やなせたかし／著 PHP研究所 <<914.6 ヤ>>
 『Q人生って?』 よしもとばなな／著 幻冬舎 <<914.6 ヨ>>



エッセイ

こんな風に言ったら叱られるだろうか？

近頃とみに根気と集中力に欠ける私が、いつでもひょいと手に取れる本は、エッセイ。

この国のエッセイの代表として枕草子を、それに対して源氏物語を小説の代表に例えることがあるが、自分の想像力や理解力という器が小さいのか、光源氏を巡る相関図を横目にして、気構えた割にたどたどしく筋を追うような読み方に終わった気がする。小説といえば、時空を超えて作中の人物に同化し、その世界に遊ぶ愉しみ。それが長編なら読み終わった達成感も心地よい。そんな虚構の世界に入る時、さあ読むぞと気持ちを力ませる癖があるのかもしれない。源氏では空回りしたようだ。

片やエッセイを読む時は、お茶をいただきながら静かに書き手の話を聞いている気分。日常の地続きというか、素の自分で力まずすんなり受け取れる言葉たちが嬉しい。加えて、ふとした一行に書き手の思いの奥行きがわまで見えた気がする時、それは至福だ。今、通勤鞆に入っている文庫本も、そんなエッセイである。ひょいと手にしたものなのに、いつのまにかお守りのように大切にしている。

(寄稿：とど)

7月号のテーマ：怪

8月号のテーマ：戦争

テーマにまつわる思い出やエピソードなどの投稿をお待ちしています。前月15日までに南部図書館窓口までお寄せ下さい。

南部図書館カレンダー

は休館日です

開館時間 10:00~18:00

2010	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
6月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

2010	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
7月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31